

■設問 I

〈出題意図〉

設問 I の題材は、子どもの電子機器やソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）の利用について書かれた BBC News の記事である。筆者は、適切な利用頻度や利用時間に関する様々な研究成果や立場を紹介した上で、それらの研究は参考になる一方で、まだ決定的なエビデンスを提示することはできていないと論じる。そのため、現時点では自分たち自身で判断していくしかないと結論づけている。受験生には、一つの研究成果に囚われず、冷静に多角的なエビデンスを見つめられるようになってほしいと願い、この文章を出題した。

〈評価のポイント〉

問 1

英語の長文を、内容を理解しながら最後まで読むことが出来ているかどうかをみた。

問 2

課題文の主題を正確に読み取ることができるかどうか、また文脈から適切な英語を推測できるかどうかを見る問題である。与えられた時間の中で、求められた情報をすばやく探すことができるかをみた。

問 3

本文の内容を読み取り、日本語で誤字脱字なく、簡潔に筋道立ててまとめる力があるかどうかをみた。

問 4

根拠を挙げながら、まとまりのある英文で自分の意見を述べる事が出来るかどうかをみた。また、合わせて、文法力、語彙力、スペリング、などの英語の知識についてもみた。

〈採点講評〉

問 1 正解は、(E)。

問 2 正解は、(B)。

問3

電子機器や SNS の長期利用に関する論争が主題であることについては、よく記述できている解答が多かった。一方で、電子機器や SNS の利用が必ずしも悪影響ばかり及ぼすわけではないという筆者の説明や、まだ研究が足りていないという課題文の結論部分をうまく記すことができていないものもみられた。さらに、本文中で挙げられている複数の研究知見についての記述がないため、論争の具体性が見えてこない解答も散見された。

問4

電子機器や SNS の利用に関する自分の「意見とその理由」を書くことを求めた問題であるが、意見はよく書けているものが多かったものの、根拠が示されていない解答が少なくなかった。英文法上の誤りも多く、冠詞や単数形・複数形などの基本的な文法を習得しているかどうか、スペルミスなく英文を書けるかどうかで点差が生じた。

■設問II

〈出題意図〉

教育学の古典とも言える二つの書籍からの抜粋を読み、難解・古風な単語や言い回しに惑わされずに英文の主旨を読み取る力、およびそれぞれの筆者の立場の違いを見分ける力を主に問うた。[A]の文章では、難解な英文の構造を見分けながら知識などのない状態の心を“white paper”に例えた比喻を理解できたかどうか、[B]の文章では、“educative”な経験と“miseducative”な経験があるという議論が文章のポイントになっているということを理解できるかどうか、が重要な点となる。古典的な英文を読み解きながら、歴史的に様々な教育観が論じられてきたことを知る機会になってほしいと願い、出題した。

〈評価のポイント〉

[A]と[B]それぞれの文章の主なポイントを理解し、端的な日本語で表現できるかどうかとともに、自身の考えを英語で表現できるかどうかをみた。

〈採点講評〉

問1

「人の心は白紙のようであると仮定する」という部分は全体的によく記述できていたが、「経験はなぜ重要だと語られているか」についてはうまく説明できていないものも多かった。“All the materials of reason and knowledge”は経験によって獲得される、という後半の文章の意味を読み解けるかどうかのポイントとなった。

問2

「真の教育には経験が必要である」が、「あらゆる経験が教育的であるとは言えない」という部分は全体的によく記述できていた。しかし、「反教育的な経験」についてはうまく記述できていない解答も多かった。文章の後半部分の意味を理解できるかどうかで点差が開いた。

問3

「子どもにとってどのような経験が重要か」に関する自身の意見はよく記述できている解答が多かったが、その「理由」を論理的説得力のある形で書けていないものや、英文法上のミスにより意味が読み取れない文章が含まれるものもみられた。英語で論理的な文章を書けるかどうか、そして即興でも正しい英文が書けるまでに基本的な英文法を習得できているかどうかで、点差が生じた。

一以上です。